

子育て・子育てでワイワイプランにおける子ども・若者の権利に関わる取組実績に係る評価【令和6年度】

ワイワイワークで子ども・若者の権利に関わる取組実績の自己評価を示し、子どもの評価を受けた上で、子ども・若者審議会専門部会にて検証を行う。
事業対象課は児童青少年課、みどり公園課、公民館、図書館

第3回「子ども・若者の権利の観点」
からの評価・検証専門部会
令和7年10月2日

資料1-1

【児童青少年課】 児童館・児童センター

市の評価						子どもの評価 (ワイワイワーク・出張ワイワイワークの意見)	専門部会からのコメント
基 計 本 方	施 策 No.	重 点	施策・ 事業名	子ども 条例	(1)事業の自己評価		
1 子ども の主体的な参加が 促される	地域 のシステムづくり	01	子どもによる子 どものための企 画づくりと事業運 営の推進	第13条	A	①中高生が主体となってイベントの企画・立案を行った。来年度の実施に向けての工夫等話し合った。 ②学校にチラシ・ポスターを掲載するなど事業の広報等を行った。 ③イベント後、アンケートを実施し、意見を聴取した。	基本方針に沿って、アンケート調査や中高生委員の意見を聞きつつ各施策・事業を進めている点が評価できる。昨年度の子ども会議で意見として多かった「ボール遊びの場所」について、放課後の学校施設(校庭開放)で調整を実施したことで、意見を出した子どもたちが「主体的な参加」ができたと感じることができた結果となっている。 「(2)子どもの視点での評価」の記載について、今後、二点の改善が必要である。 一点目は、「中高生が主体となってイベントの企画・立案を行った、工夫を話し合った」「イベント後にアンケートを実施し、意見を聴取した」とあるが、具体的にどのような内容であったのかが不明である。また「次年度に向けての工夫」についても、話し合った結果はどのように反映されるのか、その後の予定が不明であるため、担当課の自己評価の際には詳細を記載する必要があると考える。 二点目は、中高生が主体となったイベントは市ホームページなどで検索すると様子が伺えるが、児童館まつりのボランティアに参加していた中学生が、近隣の団地やコミュニティセンターのまつりにもボランティアとして参加しており、児童館だけで終わらず地域に根付いている様子が見られる。中高生が地域の人々と顔見知りになり、地域社会に参加できている現状があるため、子どもへの影響や効果については広い視点を持って記載できると良い。
	居場所 づくり	02	子どもも参画による 生涯学習事業の 推進	第13条	A	①中高生が主体となってイベントの企画・立案を行った。来年度の実施に向けての工夫等話し合った。 ②学校にチラシ・ポスターを掲載するなど事業の広報等を行った。 ③イベント後、アンケートを実施し、意見を聴取した。	
		04	青少年センター 機能の充実	第12条 第13条	A	中高生年代に魅力のある企画を提案し、中高生年代が事業の運営に参加することで、青少年センター機能の拡充を図ると共に、特化型児童館としての利用率の向上することができた。 また、中高生特化型児童館準備会を開催し、特化型児童館のあり方を中高生委員と共に検討することができた。	
		05	屋内外の居場所 の充実	第12条	A	①児童館ランチタイムの実施館を拡充を検討した。 ②サマー子ども教室は、より多くの児童が参加できるよう、定員を増やして実施することを検討した。	
		15	身近にボール遊 びのできる場所 の検討	第12条	A	学校施設の放課後等で利用できる時間帯を調整を行い、多くの子どもが、安全にボール遊びを楽しめるよう工夫した。	
2 おとな(若者)に おなじみとなる 見える	心身及 び経済 的自立	03	青少年のしゃべ る場の設定	第13条	A	①多くの子どもが楽しく過ごせる環境を整えるために、利用者との日々のコミュニケーションを強化し、利用状況の改善・工夫に努めた。 ②なし ③なし	また、「子どもの評価」によると、児童館・児童センターについては、地域によって利用する子どもの年齢層や傾向が異なり、また児童館と児童センターでの違いや児童館間でのプログラムやルール、開館時間、施設の充実度の違いなどがあると見受けられる。 利用のルールの見直しなどを行い、子どもの意見を継続して取り入れていただきたい。おもちゃや塗り絵など対応可能なリクエストにはなるべく早めに対応してあげることで、子どもたちが「主体的な参加」を実感でき、今後も意見を出しやすくなると考える。
		09	子ども・若者の成 長を社会全体で 支える地域・社 会づくり	第4条 第13条	A	①中高生が主体となってイベントの企画・立案を行った。来年度の実施に向けての工夫等話し合った。 ②学校にチラシ・ポスターを掲載するなど事業の広報等を行った。 ③イベント後、アンケートを実施し、意見を聴取した。	

【自己評価の基準】
「A」:予定どおり実施(達成)できた
「B」:予定していた一部が実施(達成)できた
「C」:予定していたが実施(達成)できなかった
「―」:該当事業なし又は当該年度に事業予定なし

【子どもの視点での評価の基準】
①事業実施にあたり、子どもの意見を取り入れたり反映したか(どのように取り入れ、反映したか)
②子どもに事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行ったか。(工夫した点など)
③この事業を行うことにより、子どもにどのような効果・影響があったか。(実施後

【みどり公園課】公園

						市の評価		子どもの評価 (ワイワイワーク・出張ワイワイワークの意見)	専門部会からのコメント
基 計 本 方	施 策 №	重 点	施策・ 事業名	子ども 案例	(1)事業の自己評価	(2)子どもの視点での自己評価			
1 子 ど も の 主 体 的 な 参 加 で す る	地域のシステムづくり		子どもによる子どものための企画づくりと事業運営の推進	第13条	A	①令和5年度アンケートなどでの評価が高かったり、子どもが多く参加した事業を継続的に実施した。 ②指定管理者や実施主体のSNSで親向けに情報を発信した。 ③外遊びを通して様々な体験が生まれた。	A	「良い点」 ・遊具が多いところ。(2件) ・イベントが行われている。(2件) ・ボール遊びができる(サッカー・バスケ)場所がある。(2件) ・噴水があって、涼しみがら遊べる。 ・市民祭り、サッカー教室などのイベントが多い。 ・公園でBBQができる。 ・季節のイベントや地域との繋がり、自然を感じられるものがある。 ・公園でキャンプや走れる場所があり、のびのびできる。 ・遊具が多く、自然が豊かで、人が集まりやすい雰囲気がある。 ・広い公園では、買物や休憩ができる場所がある。 ・色々な体験ができる。 ・自然と緑が豊か。 ・管理されていてクリーンである。 ・地域交流ができる。 「改善点」 ・ボール遊びがしたい。(3件) ・公園の安全性のため、監視カメラの設置や地域の人の巡回を増やす。(2件) ・暗くて夜は危ないので、街灯の設置してほしい。 ・遊具が老朽化しているので、定期的に点検を行う。点検を行う際は、市民どここを覚えてほしいなどの意見を直接確認しながら行う。バスケコート、陸上トラックなども点検できると良い。 ・イベントに参加する世代にばらつきがあるので、世代別のイベントを開催する。年齢ごとのスポーツ大会、飲食のイベントなど ・地域の人の理解を得て、できることを増やす。地域の人と仲良くなるために、大人の集まりに子どもも参加する。 ・ベンチやバランなど、休める場所があると良い。 ・バケツやスコップなどの貸出をする。 ・スタンブラーを使ったイベントを行う。 ・広い公園にはトイレを2つ設置してほしい。 ・小さい公園にもトイレを設置してほしい。 ・イベント等を全ての公園で行ってほしい。 ・イベント内容を配布して、どんなイベントが行われているか分かるようにしてほしい。 ・駐輪スペースを作ってほしい。 ・わくわく公園のボールコートの砂が漏れ出しており、砂が舞って目や口に入るのでコンクリートにする等してほしい。 ・近所の人からクレームが来るので、壁を作ってあげてほしい。そうすることで、運動能力が向上する。 ・自分の家の周りにだけ公園がない。	子どもの主体的な参加の視点から見ると、高校生年代の参加や関わりについて記載がないため、そこは改善が必要だと考える。 「子どもの評価」において、「固定遊具の点検を行う時は市民に意見を確認して欲しい」とあったが、点検時のみではなく新設する際にも利用する子どもなどに意見を聞いて反映することで、子どもたちが「主体的な参加」ができたと感じる機会を増やすことができると考える。 「(2)子どもの視点での評価」の内容について、子どもの意見を取り入れて反映する機会の記載が少ないため、子どもの声を聞く仕組みを作った方が良いと考える。目安箱を置く、インターネット上に書き込めるようにするなど、遊具の不具合報告のみならず子どもの要望などが書き込めるような手法もあると良い。 また「子どもが多く参加した事業を継続的に実施」、「子ども向けの出店を多くしたい」との記載があるが、具体的にどのような内容なのか詳細まで記載できると良い。加えて、その事業が、本当に子どもが求めている事業なのか不明で、他に選ぶものがないので参加しているのと、子どもの希望を聞いて上での参加は意味が違ってくるため、「それが本当に子どもの意見なのか」というところまで考える必要がある。
	居場所づくり	01	子ども参画ですすめる遊び場づくりの推進	第12条 第13条	A	泉小わくわく公園地域協議会と指定管理者が花壇活動協働活動やイベントの企画準備等について意見交換を行った。多世代の人々が集う憩いと交流の場をつくり、公園の利活用の推進に繋げることができた。	A		
		05	屋内外の居場所の充実	第12条	A	「下保谷四丁目特別緑地保全地区保全活用計画」に基づき、年間24回の一般開放及び四季折々のイベントを年間4回行い、子どもたちにとっても地域の文化・自然を感じられる居場所として楽しめるような事業を実施した。	A	①イベントでは季節ごとに屋敷林の自然や文化に触れられる体験コーナーを設けた。 ②市HP・LINEの他、市立の小中学校にポスターの掲示依頼を行った。 ③体験を通じて自然や文化に触れることができた。	
		15	身近にボール遊びのできる場所の検討	第12条	A	ルールを守って公園を利用してもらうため、看板設置などにより、まり遊びについて周知を行った。	A	①小さな子どもやわらかいボールを使った遊びをできる機会を創出した。 ②各公園に看板の設置や更新を行った。 ③まり遊びを通じた健康増進の場になった。	

【公民館】

						市の評価		子どもの評価 (ワイワイワーク・出張ワイワイワークの意見)	専門部会からのコメント
基 計 本 方	施 策 №	重 点	施策・ 事業名	子ども 案例	(1)事業の自己評価	(2)子どもの視点での自己評価			
1 子 ど も の 主 体 的 な 参 加 で す る	居場所づくり	08	おとなの利用が中心となる施設に子どもの居場所併設の実施	第12条	A	・以前から公民館では夕方以降の中高生の学習スペースとして各館多くの利用があり、インターネット環境の整備についての要望が上がっていたこともあり実施した。 ・整備後、パソコンやタブレットを用いて学習する学生が増えた。	A	「良い点」 ・Wi-Fiが繋がっているところ。(4件) ・勉強ができる場所、自習室がある。(3件) ・イベントや講座がたくさんある。(4件) ・図書館の開館待ちの間に利用できる。 ・広いのでみんなで使える。 ・必ず大人がいるので安心。 ・子ども達が遊べる部屋もある。 ・年齢の壁がない。 ・地域の様々な年齢の方と交流できる。 「改善点」 ・公民館を知らない人が多いので、告知方法(インスタ等のSNS)を検討してほしい。(2件) ・講座に参加しづらいので、学校でも宣伝してほしい。 ・お便りを子ども向けに読みやすく工夫してほしい。ふりがな、シンプルな情報、イラスト・写真付きにして子ども向けのお便りを個別で作る。 ・公民館という名前を変えてほしい。公民館と聞くと年齢層が高めの方を想像するので、若年層、中間層にも親しみやすい名前にしてほしい。公民館ということ、母親がお知らせ等を見ずに捨ててしまう。「公民館」をいう名前を変えるアンケートをしたら良いと思う。 ・もっとイベントを増やしてほしい。 ・ポッチャ以外のスポーツ体験も定期的に開いてほしい。 ・子ども達が遊べる部屋が会議等で使えない日があるので、毎日利用できるようにしてほしい。 ・クラブ等をつくってほしい。 ・子どもにも大人にも良いイベントがほしい。 ・くつろぎスペースが欲しい。 ・学習スペースを設置してほしい。	幅広い年齢層へのアプローチを通じて事業が順調に進められていると見受けられる。Wi-Fiが設置されたことで利用者の多くが便利になり、子どもの居場所としての機能強化に繋がっていると思われるが、具体的に何人増えたのか、数字で評価できる部分は記載すると説得力が増すと考える。 また文化や芸術に触れる事業も多々あるが、ポッチャなどを通じて障害児も健常児も同じ時間を過ごせるような企画があるとさらに多くの子どもたちの参加に繋がると考える。 「子どもの評価」によると、公民館に学習スペースが設置されていても、周知が十分でないと感じられる。公民館が子どもの居場所としてさらに認識されるには、子どもたちも使える場所であるということをもっと告知する必要がある。 また、「公民館という名前を変えてほしい」、「公民館をいう名前を変えるアンケートをしたら良いと思う」などの子どもの意見があったが、そのことについても子どもたちから意見を聞いたり、子どもたちと話し合える場所を作ることができると「(2)子どもの視点での評価」にも繋がりと、より良いと考える。
		10	子ども向けの芸術・文化・スポーツの振興	第11条	A	・子どもとその保護者対象の文化・芸術・スポーツに関する事業 5事業・延べ25回実施 ・陶芸、藍のたたき染め、百人一首、二胡、ポッチャ ・青少年対象の文化・芸術・スポーツに関する事業 5事業・延べ44回実施 ・K-POPダンス、中学生ボランティア活動、中高生が企画する小学生向け防災講座、夏休み青少年ウィーク、軽音講座	A	①なし ②通常の広報に加え、学校にチラシ配布の協力を依頼した。 ③講座の内容だけでなく、発表や企画運営を通して他の学校の生徒や地域の大人たちと関わる機会となり、また今回の参加者が経験者として次の世代へ引き継いでいく展開を見せる事業もあった。	

【自己評価の基準】 「A」: 予定どおり実施(達成)できた 「B」: 予定していた一部が実施(達成)できた 「C」: 予定していたが実施(達成)できなかった 「―」: 該当事業なし又は当該年度に事業予定なし	【子どもの視点での評価の基準】 ①事業実施にあたり、子どもの意見を取り入れたり反映したか(どのように取り入れ、反映したか) ②子どもに事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行ったか。(工夫した点など) ③この事業を行うことにより、子どもにどのような効果・影響があったか。(実施後アンケートや実施後にももらった意見など)
---	---

【図書館】

					市の評価		子どもの評価 (ワイワイトーク・出張ワイワイトークの意見)	専門部会からのコメント
基 計 本 方	施 策 No.	重 点	施策・ 事業名	子ども 事例	(1)事業の自己評価	(2)子どもの視点での自己評価		
1 子 ど も の 主 体 的 な 参 加 で す る	03	重-2	子ども参画による 広報誌づくりの 継続	第13条	A	A	「良い点」 ・イベントが多い(お話し会やバックヤードツアー、一日図書館員など、多くの人に本に触れてもらう取組み。大学生も関わるができる)。(4件) ・中高生が企画に参加できるのが良い(YA世代からYA世代に向けた本の紹介など)。(2件) ・本のリエーションが多く、いっぱいある。(5件) ・道(通路)が真ん中にあるので、行き来しやすい。 ・本の予約システムが便利。 ・用途によってブースが分かれている。 ・PCでインターネット閲覧ができる。 ・きれいで静か ・フリースペースがある。 ・環境が良い。絵本をゆっくり読めるスペースがあったり、世代に合わせた本を揃えたりしている。 ・30冊まで本を借りられるところ。 ・コーナーが充実していること。 ・防犯対策がされており、何かあれば避難できる。 ・本を探す上で困ったことはない。	イベントが多く開催されており、事業が順調に進められていると見受けられる。特に子ども参画による広報誌の企画などは、編集に関わった中高生にとってほみんなで作り上げることで達成感を感じられ、「主体的な参加」を実感できる経験になったと思われる。 イベントには参加者も多く、夏休み中のイベントは子どもたちの居場所にもなっている。中学生によるオススメ図書 の企画も図書館の利用に繋がるため、各図書館で周辺 中学生と協力できるとさらに良い事業になると考える。ま た、中学生による幼児への読み聞かせなど、他の世代と の交流が図れると子どもの居場所としてさらに良くなると 考える。
	10		子ども向けの芸 術・文化・スポ ーツの振興	第11条	A	A	「改善点」 ・机が満席のときがあるので、自習室を増やしてほしい。クラウドファンディングでお金を募る。(3件) ・オンライン貸出、本のネット(スマートフォン)予約、見やすいホームページがあると良い。(2件) ・アクセスを容易にしてほしい。もっと身近な所にあってほしい。(2件) ・外観や雰囲気には抵抗感がある。大人のイメージで静かすぎて怖い。見た目をもう少し変えてほしい。なんの建物かわからないので、図書館だと外から見てわかりやすいようにしてほしい。(2件) ・貸出できる本の数を増やしてほしい。 ・施設が広いから、本を探すところが必要。 ・本の取り寄せやサイト検索が難しい。 ・子どもライブラリが欲しい(フリガナ付きの図鑑や絵本がある)。 ・本を借りる所では、スマートフォンで本の予約ができると良い。 ・ネット予約や蔵書検索の際、もっと本の画像を載せてほしい。 ・いろいろな人の「読みたい!」(例えば、静かに読みたい、楽しくワイワイしたところで読みたいなど)に寄り添える場所になってほしい。 ・なかなか見つからないので、くつろぎながら過ごせるスペースが欲しい。椅子の背もたれを付けてほしい。 ・机とイスをもっと増やしてほしい。 ・大人向けにパソコン、コンセントを増やしてほしい。 ・図書館ごとに休館日をずらしてほしい。 ・色んな学校の展示をしてほしい。 ・学校の図書館と連携を取って、本の取り寄せを学校でできるようにしてほしい。 ・ロビーが少し暗いので、子どもにわかりやすくして見やすい注意ポスターを設置する。 ・キーボードが打ち心地が悪いので、ひばりが丘図書館や柳沢図書館のキーボードに統一してほしい。 ・飲食スペース、おしゃべりできるスペース、自習スペース、閲覧スペースがあると良い。 ・インスタグラムやTikTokなどのSNS、イベントのチラシで広報する。 ・上映会のイベントをする。 ・駅チカなど、よく行く場所に返却ポストを設置する。 ・曜日関係なく本を返却できると良い。 ・休憩できる場所(カフェスペース、ウォーターサーバー、コンビニ)があると良い。自動販売機や協賛を募ってコスト管理をする。 ・ポイント制にして行くのが楽しくなると良い。ちょっとしたお菓子や飲み物のプレゼントをする。 ・図書館で運動ができるところが欲しい。 ・夢の図書館をつくりたい!	「子どもの評価」によると、ネット予約や自習スペース、 飲食スペース(図書館の隣の公民館で)などのすでに 行っていることについて、周知が十分でないと思えられ るため、周知方法の工夫を継続して行っていく必要があ ると考える。 また本の検索について、「困ったことはない」という意見 と「探しにくい」という意見の両方があるため、低年齢層向 けの検索UI(ユーザーインターフェース)※の整備など、 多くの子どもが利用しやすい環境を整備していただきた い。加えて、「図書館ごとに休館日をずらす」、「いろんな 学校の展示をする」など、ぜひ子どもからの提案を生かし て、子どもが「主体的な参加」を実感できるような事業の 検討も行っていただきたい。
	12	重-4	図書館の子ども スペースの充実	第12条	A	A	①図書委員会の生徒が展示資料の選書・手書きのPOP作成を行った。目を引く装飾で、魅力的なコーナーとなった。 ②展示の様子を図書館ホームページに掲載した。 ③中学生が選んだおすすめ本の展示は、同世代の利用者の関心・興味を引く機会となった。また、大人が展示資料を手取る様子も見られた。	「(2)子どもの視点での評価」の内容について、子どもの 意見を取り入れて反映する、という機会の記載が少ない ため、常時、子どもの声を聞く仕組みを作っていくべきだ と考える。目安箱の設置や掲示板などに子どもたちが自 由に意見を書き込める、話し合えるような仕組みなどを作 れると良い。 ※検索ユーザーインターフェース ユーザーが情報を検索する際に利用するインターフェー ス(操作画面や機能)を指す。
					【自己評価の基準】 「A」:予定どおり実施(達成)できた 「B」:予定していた一部が実施(達成)できなかった 「C」:予定していたが実施(達成)できなかった 「一」:該当事業なし又は当該年度に事業予定なし	【子どもの視点での評価の基準】 ①事業実施にあたり、子どもの意見を取り入れたり反映したか(どのように取り入れ、反映したか) ②子どもに事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行ったか。(工夫した点など) ③この事業を行うことにより、子どもにどのような効果・影響があったか。(実施後アンケートや実施後にもらった意見など)		